

目 次

かたりべ第一集

題 字 金木町蒔田 書道師範 吉田清作書

表紙に寄せる人丸神石ゆかりの縁者としての記 山 中 操

折込みグラビア 字萩元嘉瀬館見取図・加勢城踏査図

| | | |
|--------------|-------------------------|-----|
| ふるさとをさぐる会の歩み | 木 下 巽 | (2) |
| 文化財保存について | 金木町長 田 中 豊 藏 | (4) |
| 松 風 の 跡 | 金木町教育長 中 谷 金四郎 | (4) |
| 地 方 文 化 | 金木町議会議長 秋 元 武 治 | (5) |
| 発刊にあたって | 嘉瀬ふるさとをさぐる会 前会長 山 中 正 津 | (5) |

| | | | | | | |
|-----|-----------|-------------|-----|------------|---------|------|
| 随 想 | 先人の遺産を大事に | 須 崎 正 敏 | (6) | 『津軽の子守唄』から | 沢 田 薫 | (9) |
| | 語り聞き | 秋 元 惣 之 進 | (7) | 遺 蹟 | 木 立 久 二 | (10) |
| | 奴踊りと逸子踊り | 小 山 内 嘉 一 郎 | (8) | | | |

| | | |
|-----------------|-----------|------|
| 『いごぐ穴』と天明飢饉 | 木 村 治 利 | (12) |
| 中柏木部落成立と氏族構成の研究 | 原 田 万 治 | (46) |
| 嘉 瀬 今 昔 | 木 立 民 五 郎 | (50) |
| 柿本人麻呂と『伊呂波歌』 | 外 崎 三 千 男 | (60) |
| 嘉瀬八幡宮考察 | | (20) |
| 道 | | (34) |
| 上方見物紀行録 | | (26) |
| むかしかたりっこ | | (56) |

| | | | | | |
|---------------------|---------------------|---------------|---------|---------|--------------|
| 歴 史 ポ ッ ト | 妙光庵・古い墓石 | (10) | 踏 査 記 録 | 二ツ森丸石断層 | (11) |
| | 享和十三年の村落・賽の河原地蔵導堂由来 | (19) | | なぞの組み石 | (25) |
| | 頼母子帳 | (19) | | 天明飢饉の惨状 | (33) |
| | 明誓庵由緒語り | (24) | | 槍の穂先か | (33) |
| | 譲渡書 | (32) | | 一口メモ | (32)(44)(54) |
| 工藤次左衛門様御知行所地・頼母子講請書 | (55) | 昔のワッパク仕事 | (45) | | |
| 津軽藩凶作年次 | (59) | 祖先の信仰 | (45) | | |
| | | 史蹟標木・赤鉛筆・会員名簿 | | | |

かたりへ 第二集 目次

表紙 嘉瀬吹踊の発祥地
牌文 嘉瀬吹踊の由来 裏面表紙 柿本人形宮尊像

巻頭言 匿名かたりへについて 山中正津 1
心ざとへの程度……………土岐兼房 8
追憶の津軽わらべ唄……………沢田 薫 7

田金木町晴作画 吉田構成 眞下 写真カ
不下清一 金田清一
題字 稲田政孝 5
『エシコ』……………沢田勝衛 4
伊藤談話……………沢田 薫 7
懐しの津軽わらべ唄……………秋元幸之進 6

嘉瀬の足跡を尋ねて……………23

紙上答論ゼミナール 36

◎嘉経は衣川で果てたのだろうか？ 沢田 薫 原田万治
◎喜良市娘と嘉瀬若者、または喜良市若者 木村治利 木立久二
◎嘉瀬の源流は 木立民五郎 木下清一
◎嘉瀬十年とは？ 佐野 洪 山中正津
◎私達の祖先はアイヌ族か蝦夷人か？ 小山内嘉一郎 須崎正敏

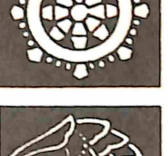
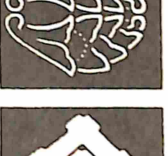
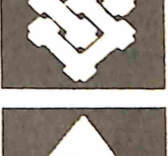
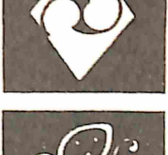
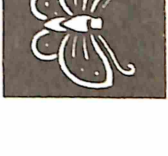
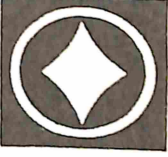
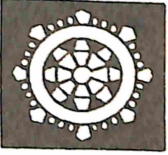
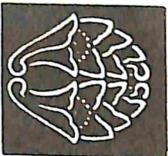
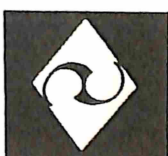
嘉瀬三十三観音石像……………82

民謡愚考……………木下清一 50
集吹踊り芸能成立過程……………木立民五郎 51
逸子踊り……………小山内嘉一郎 52
特 嘉瀬の吹踊りと歴史的背景……………木村治利 53
民謡を育てた嘉瀬の唄人……………須崎正敏 60

私の太宰治……………木立民五郎 66
中村不断片……………原田万治 70
狐鳴と嘉瀬……………秋元幸之進 30

歴史ホット
鏡界の状・地頭譜……………6
金木能守復讐……………13
津軽観音考……………94
『かたりへ』への唄り……………83
一口メモ……………63
ルボ尺金……………8
嘉瀬の文脈……………10

『呼吸室』万教室と……………10
嘉瀬の文脈……………10



かたりへ 第三集 目次

表紙 桃蔵……………(1)

巻頭言 歴史的な地方の時代……………金本町長古川竹夫……………(3)

田金木町晴作画 眞下 眞下 眞下
藤清画 眞下 眞下 眞下
『エシコ』……………沢田勝衛 4
伊藤談話……………沢田 薫 7
懐しの津軽わらべ唄……………秋元幸之進 6
心ざとへの程度……………土岐兼房 8
追憶の津軽わらべ唄……………沢田 薫 7

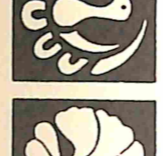
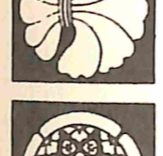
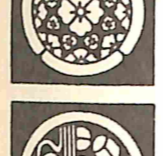
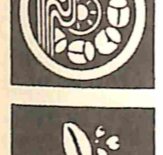
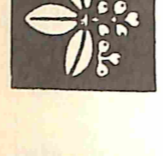
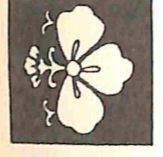
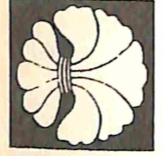
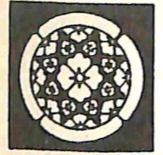
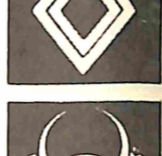
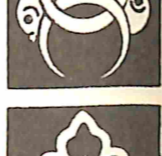
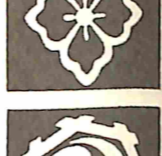
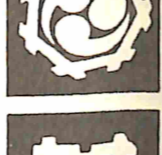
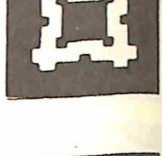
ふるさとを語る……………山中正津 22
数暇み余聞……………秋元幸之進 42
遊びの回想……………原田万治 48
嘉瀬文人の源流 俳人の流れとその人脈……………沢田 薫 48
イタコ・ゴミンは 津軽のかたりへではなかったか？……………山中長三郎 42

特集紙上討論ゼミナール 嘉瀬の語源……………68
特別読物 親潮の流れ……………74
農民生活記録……………木村治利 68
山のことあれこれ……………須崎正敏 62
柿本人麻呂の伝記……………外崎三千男 68

殉難警察官吏之碑……………122
ふるさと山野……………61
忠魂碑……………47
嘉瀬小学校……………73

米価変動と生産量……………84
メモ帳 = 北海道と津軽……………84
① 遊覧シヤモ和入……………84
② 羊蹄山に政所……………84
③ 北海道侵略の始まり……………84
④ アイヌ追放……………84
⑤ 海流……………84
⑥ 松前藩の始祖……………84
⑦ 流刊地……………84
アイヌ蜂起……………84

嘉瀬話……………64
① 鐸の精霊……………64
② 金九郎の蜂……………64
鍛冶カガア言葉……………64
印刷の窓……………64
赤鉛筆……………64
『かたりへ』の便り……………64



かたりへ 第二集 目次

表紙 嘉瀬吹踊の発祥地

巻頭言 匿名かたりへについて 山中正津 1

懐しの津軽わらべ唄……………秋元幸之進 6

嘉瀬の足跡を尋ねて……………23

紙上答論ゼミナール 36

◎嘉経は衣川で果てたのだろうか？ 沢田 薫 原田万治

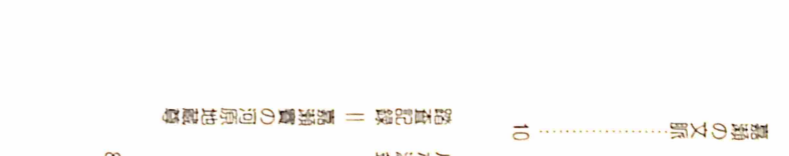
嘉瀬三十三観音石像……………82

民謡愚考……………木下清一 50

私の太宰治……………木立民五郎 66

歴史ホット
鏡界の状・地頭譜……………6

『呼吸室』万教室と……………10



表紙 曼陀羅地獄絵(部分) (2)

表紙解説 妙光庵の曼陀羅地獄絵 (3)

巻頭言 路端の石ころごとし 金木町教育長 高橋元彌 (3)

「ふるさとを探る会」の歩み (6)

表紙 題字 田村雄三 詩 吉田清作 書 金木町 書道師範 吉田清作

嘉瀬考その一 木下巽 (10)

ふるさとを探る(2) 十和田様 山中正津 (14)

踏査紀行 木村治利 (28)

若い頃の漫遊 小山内嘉一郎 (24)

余暇 観音山から嘉瀬を眺めて 秋元惣之進 (50)

米糠三升 秋元惣之進 花田征五郎 木下清一 木村治利 津軽ネフタ 太田忠光 吉崎正光 青山兼四郎

特集 紙上討論ゼミナール (38)

柿本人麻呂の伝記(中編) 外崎三千男 (63)

玉ノ井村右エ門をさぐる 原田万治 (71)

奉加帳嘉瀬今昔 きのした清一 (80)

スケッチ嘉瀬 きのした清一 (83)

嘉瀬話 ① 治たい養 (57) ② 観音様 (49) ③ ナハレなして (70)

昔の農具 ① 稲こぎ機 (49) ② 踏車 (49)

山のオキテ ① 焚火・口笛 (62) ② 股木 (70)

新撰スポート アロホク青森大会 例会のニコニコ (62)

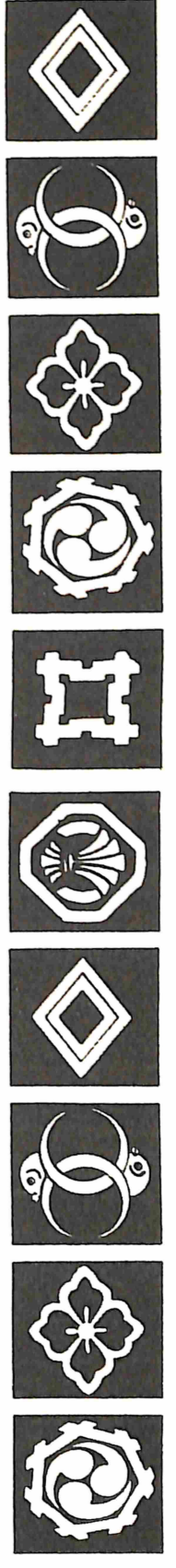
大幸治も 嘉瀬の人

山中家「蔵書目録」 読者の声 人丸の石をたずねて (118)

昭和五十八年度版(第三集)かたりべ誌友録 (118)

山中家「蔵書目録」 読者の声 人丸の石をたずねて (118)

赤鉛筆 (124)



《かたりべ 第五集目次》

巻頭言 金木町教育長 田村雄三 (3)

藩政時代の嘉瀬を探る きのした清一 (4)

津軽半島断踏査記 木村治利 (42)

山中氏年代記 山中正津 (20)

砧句への道程 沢田一步 (24)

町内名の語源と由来の考察 秋元惣之進 (33)

古き仏壇を尋ねて(共同取材) 木村治利 (62)

嘉瀬の金多・豆蔵(沢田政由一座) 秋元惣之進 (40)

柿本人磨の伝記(下編) 外崎三千男 (93)

① タタラビ花コ 山 沢 中 田 正 津 薰 秋 元 星 月 沢 田 政 孝 (50)

② 嘉瀬言葉 木 立 久 二 山 中 正 津 (55)

共同研究討論 山 中 正 津 (41)

◇宝さがし (41)

◇嘉瀬話「厄払い」 (54)

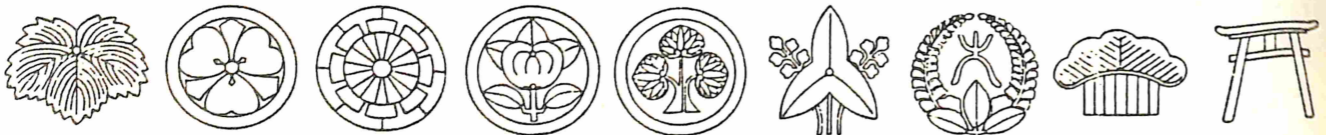
親潮の流れ 有間太郎 (67)

(誌友寄稿) 想い出の人々 岩田清海 (81)

山中日記(社会編・農業気象編) (83)

◇表紙絵解説 (106)

◇編集後記 (106)





■かたりへ第六集Ⅱ

目次

表紙 (三稿ごきん)

《巻頭言》人間性高揚……………金木町長 大橋忠勝 (1)

嘉瀬地区石塔群……………きとした清一 (4)

嘉瀬八幡宮寄進物石造明細……………(沢田 薫・須崎正敏・秋元惣之進) (12)

嘉瀬モツチヨ……………(42)

秋元惣之進・木村治利・山中正津
木立久二・沢田 薫・原田万治

正義の光を築く増田千代吉氏……………吉崎正光 (47)

農民運動の先駆者……………原田万治 (53)

増田千代吉さんの想い出……………小山内 嘉一郎 (54)

《検察夜話》特高警察の人々……………土岐兼房 (57)

あなたへの教え方……………沢田 薫 (57)

嘉瀬と金木・反目二百年……………秋元惣之進 (58)

樽部・鹿角を行く……………山中正津 (20)

津軽半島縦断踏査記(2)……………木村治利 (32)

身売り……………原田万治 (64)

◇津軽の田面から消えたもの①……………(19)

◇津軽の田面から消えたもの②……………(56)

◇りんご知から土器……………(31)

◇酒喧嘩……………(78)

◇ふるさとのわらべ唄……………(41)

〈特別寄稿〉

思い出るまま……………成田勇司 (88)

柿本人麻呂の伝記(下編)……………久崎三千男 (79)

◎表紙解説……………○あとがき……………(90)

●かたりへ第七集

目次

次

《巻頭言》かたりへに寄せて……………金木町教育長 近藤 慶一郎 (1)

津軽のイタコ・オリオガイタコ……………沢田 薫 (4)

嘉瀬八幡宮と献納物考……………秋元惣之進 (6)

風の由来……………秋元幸之進 (14)

村から豊耕馬が消えた……………木村治利 (15)

旧関タコ部屋など……………山中正津 (20)

つがる外三郡誌集録……………鳴海 勲 (27)

嘉瀬地区の土地改良等みる記念碑……………(33)

素通りした嘉小百十周年……………小山内 嘉一郎 (46)

木造新田散歩……………木村治利 (47)

嘉瀬の貌……………(51)

秋元惣之進・小山内 嘉一郎
沢田 薫・山中正津
木村治利・原田万治

◇津軽の田面から消えたもの◇

落穂拾い……………(40)

番太郎……………(42)

堆肥運搬……………(66)

▽《津軽方言詩》参詣土産……………沢田 薫 (32)

柿本人麻呂の伝記(下編)つき……………外崎三千男 (59)

遠くなりけり明治の新聞記事を尋ねて……………きとした清一 (55)

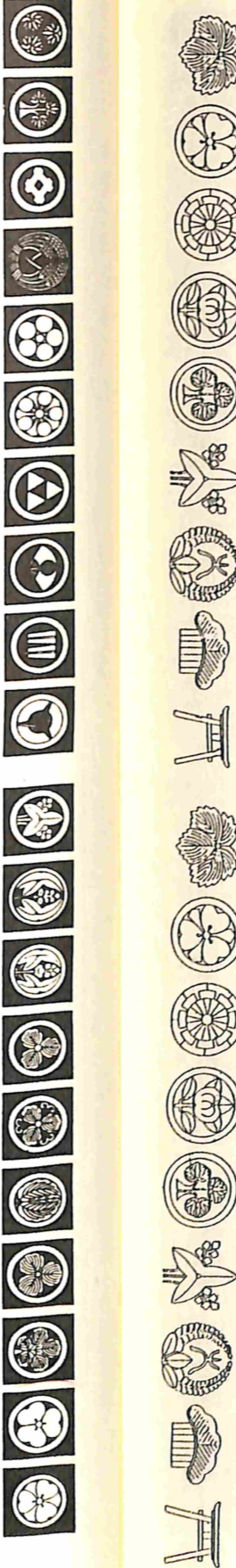
◇江戸小咄二題……………(19)

◇ひとくちメモ……………(32) (66) (74)

◇金木町褒賞……………(77)

◇あとがき……………(76)

上 論 誌 討





株式会社

藤博材木店

東京都品川区戸越5丁目14番17号
(第二京浜国道)
電話 (781)1292・(782)0216
代表取締役 湯本正美

阿部齒科院

院長 阿部 寿

五所川原市敷島町六四ノ二
電話 三五一一五四四



五所川原市川端町 駐車場前

スナック いのち

電話 34-8197

あなたの「いのち」へどうぞ



五所川原市旭町10番地

静かに語らえる店

居酒屋 串つね

電話 34-9592

会員名簿

| | |
|------|---------|
| 顧問 | 外崎 三千男 |
| 会長 | 木立 民五郎 |
| 副会長 | 木村 治利 |
| 副会長 | 原田 万治 |
| 会計 | 木立 久二 |
| 会計 | 鳴海 勲 |
| 会員 | 秋元 幸之進 |
| 〃 | 小山内 嘉一郎 |
| 〃 | 須崎 正敏 |
| 〃 | 沢田 政孝 |
| 〃 | 山中 長三郎 |
| 〃 | 沢田 薫 |
| 〃 | 秋元 惣之進 |
| 〃 | 木下 巽 |
| 〃 | 秋元 清逸 |
| 〃 | 木下 清一 |
| 編集局長 | 山中 正津 |

貯金・共済・米・肥料は農協へ……

嘉瀬農業協同組合

金木町大字嘉瀬字雲雀野一八ノ一
電話(代) 五三一二〇六七
組合長理事 吉崎 忠直
参事 成田 一弘
外役職員 一同

編集後記

- ▽ピンチヒッターとして、第八集の編集にたづさわり、悪戦苦闘しながら、原稿集め・難産に難産を重ね漸く収集、発行まで漕ぎつけました。
- ▽ほっと一息ついているものの、編集の未熟さはみごと「空振りの三振」というところ、まことに汗顔の至りです。何卒ご容赦のほど……。
- ▽早々、原稿をお寄せ下さいました会員の方には、発行の遅れを深くお詫びいたします。

▽昨年は、標柱の書替、記念碑周辺の修理、土盛り等の作業に終始し、共同調査と記録の方が欠けました。今年は再出発の積りで、調査、探究に取り組みたいものです。

かたりべ 第八号

発行 平成二年六月三十日

発行所

嘉瀬ふるさとを探る会

発行者

木村治利

編集人

山中正津

印刷所

(有) 八戸プリント
八戸市沼館二丁目十番五七号

タタラビ花コの再考を

私は、最近「続続薬草カラー図鑑(星薬科大学名誉教授・伊沢一男著)」で「タタラビ」という古名の薬草があることを知った。キク科の植物で、現在名を「タカサブロウ」というのだそうだ。

その本には、次のように記載されている。

北海道を除いた本州から沖縄まで、たんぼのあぜ道や湿地に自生する一年草。種子が淡水や海水に強く、特に海流に運ばれて広く世界じゅうに分布している。茎は30〜60cmで、短毛が生え、直立するか斜めに立って枝分れする。葉は無柄で披針形。先端がとがり、縁に細い鋸歯があり、両面に短毛が生え、茎とともにさわるとざらつく。夏の盛りに、経1cmほどで周辺に白い舌状花と中心に淡緑色の管状花のある頭花をつける。舌状花冠は長さ5mm、管状花冠は4裂。その果は長さ3mm。

名前の由来は古名を単にタタラビと呼び、のちにタタラビソウとなるが、タタラビは皮膚などのただれることを意味する古名。タタラビソウはただれるときに用いられる草であり、その意味を知らなければきたない草という感じがする。そのイメージ・チェンジのためであるのか、高三郎の人の名にあやかって、タカサブロウとなったとする説がある。

目のただれを治す薬草として古くから用いられている。中国にもこの草があって鱧腸の名で知られ、また墨早蓮ともいう。夏にこの茎を折ると、断面が黒くなって乾く。これはウエデロラクトンという特殊成分があり、これといっしょに含まれている酵素が空気中の酸素を吸収し、この特殊成分を変化させるからである。墨早蓮の漢名はこのことに由来している。

かたりべ第五集の紙上討論の課題に、嘉瀬の奴踊り歌詞「タタラビ花コ」というのがあって、五人の会員からの意見が寄せられてあり、古老から伝い聞きやら、青森営林署で出版した本の中に記載があったということから、結論は、タタラビ花コはウマノアシガタというようになった。

「タタラビ花コはウマノアシガタ」として次代に語り伝えるため、本号(第八集)の表紙にはウマノアシガタの写真(雲雀野地区の水田で撮影したもの)を取り上げた。

しかし、われわれは、歌詞の作者も知らず、ウマノアシガタがどうしてタタラビ花コと呼ばれるのかの意味も知らない。

そこに、タタラビの古名がある植物が実在するとなると、どう理解したらよいか。

おれのかくじの タタラビ花コ

昼間しおれて 夜に咲く

作者は、どの草を指してうたったのだろうか。ウマノアシガタなのか、タタラビソウ(タカサブロウ)なのか。

識者のご高見、会員の再度のご意見を寄せてもらえれば幸いです。

(山中正津)



ヤッコ踊り



嘉瀬奴踊りと奴橋

伊藤忠吉記念図書館



1090051766